

PASSION通信

平成28年6月1日～平成28年11月30日

ごあいさつ
連結財務ハイライト
連結財務諸表

Special 1.

SAKATAのグローバル展開
ジニア「プロフュージョンレッド」ダブル受賞

Special 2.

| 温故知新 | サカタのタネ ルーツを探る! 物語②-後編上

株主様アンケート集計結果のご報告

Vol.4

第76期

中間株主通信



サカタのタネ

PASSION in Seed



株式会社 サカタのタネ
SAKATA SEED CORPORATION

証券コード 1377



ごあいさつ



代表取締役社長

坂田 宏

株主の皆様におかれましては、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第76期第2四半期（平成28年6月1日～平成28年11月30日）の業績ならびに通期の見通しについてご報告いたします。

当第2四半期の業績についてお聞かせください

当社グループの当期第2四半期累計期間における連結業績は、前年同期に比べ増収増益となりました。

具体的には、売上高が282億21百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益が56億円（前年同期比12.2%増）、経常利益が58億75百万円（前年同期比13.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が43億19百万円（前年同期比30.0%増）になりました。

前期に引き続き、国内・海外ともに収益性の高い野菜種子の売上が好調に推移しました。

海外では、北米でのブロッコリー、キャベツ、ホウレンソウ、メロンや、アジアでのブロッコリー、ヒマワリ、欧州でのトルコギキョウを中心に販売が好調であったことから、前年同期比増収増益となりました。

国内では、ブロッコリー、レタス、ニンジン、コマツナを中心に野菜種子の売上を伸ばしました。花種子は景気低迷による作付け減が響き、微減となっております。また、苗木においては、特にトマト、トルコギキョウについて種子から苗木へ需要がシフトしている動きが見られます。資材については、ハウス関連の資材需要減、前期に大幅に伸びたオリジナル培養土の反動減により減収となりました。小売事業については、天候不順の影響や資材の販売不振、また前期から引き続き不採算商品の削減を行っていることにより、売上高は前年同期比減収となりましたが、採算改善に向けて継続して取り組んでおります。

第76期通期の見通しについてお聞かせください

上期の業績が好調であったことを受け、通期の業績予想を当初の予想から上方修正いたしました。

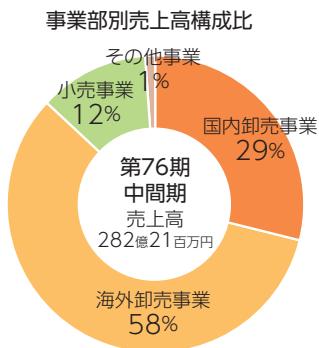
上期は、国内・海外ともに野菜種子の売上が大幅に増加したこと、また、欧州・アジアでの花種子が好調であったことなどから、増収となりました。また利益面につきましても、収益性の高い野菜種子



の売上が予想に比べ大きく伸びたことから、増益となりました。これらの増収増益要因のほか、為替が下期にかけて円安に推移していることから、想定為替レートを1米ドル110円、1ユーロ115円（前回予想は、1米ドル100円、1ユーロ110円）に変更いたしました。

これらにより当社グループの第76期通期の業績予想は、売上高は594億円（当初予想比33億円増）、営業利益は70億円（当初予想比10億円増）、経常利益は74億円（当初予想比11億円増）、親会社株主に帰属する当期純利益は52億円（当初予想比8億円増）と見込んでおります。

■ 連結財務ハイライト



株主の皆様へ向けてメッセージをお願いします

いつもサカタのタネをお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

皆様のおかげをもちまして、当期第2四半期累計期間も売上高、経常利益、純利益ともに前年同期対比増で終わることができました。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、イギリスのEU離脱に続いて、アメリカでもトランプ大統領が就任するなど、政治・経済に大きな影響を与える出来事が世界中で起きています。また環境面においても、猛暑や豪雨など気候変動による影響が深刻化していますが、一方でIoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）を利用してこれを予測・克服しようとする動きもみられます。

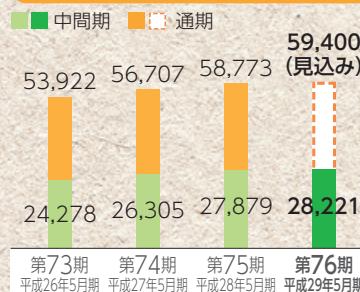
当社も日本に基盤を置く企業として「もの創り」の精神を忘れずに、当期下半期の予想を達成すべく尽力してまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年2月

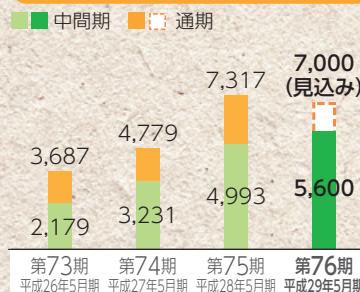
売上高

(単位：百万円)



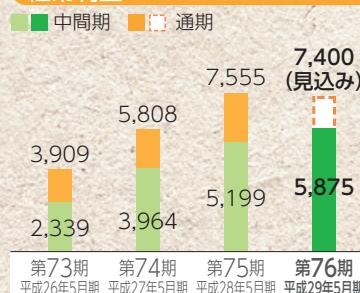
営業利益

(単位：百万円)



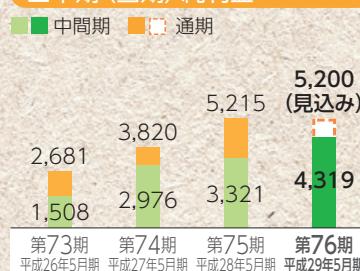
経常利益

(単位：百万円)



親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

(単位：百万円)



連結財務諸表

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結会計期間末 平成27年11月30日現在	当第2四半期 連結会計期間末 平成28年11月30日現在	前連結 会計年度末 平成28年5月31日現在
【資産の部】			
流動資産	65,831	66,030	64,864
固定資産	43,197	42,555	43,995
資産合計	109,028	108,585	108,859
【負債の部】			
流動負債	11,781	11,676	10,970
固定負債	7,780	7,351	9,002
負債合計	19,562	19,027	19,972
【純資産の部】			
株主資本	85,354	90,439	86,796
その他の 包括利益累計額	3,978	△1,020	1,949
非支配株主持分	132	139	141
純資産合計	89,465	89,558	88,886
負債・純資産合計	109,028	108,585	108,859

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 平成27年6月1日から 平成27年11月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成28年6月1日から 平成28年11月30日まで	前連結 会計年度 平成27年6月1日から 平成28年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	4,686	5,343	4,384
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,092	△1,401	△3,430
財務活動による キャッシュ・フロー	701	△635	335
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△185	△475	△431
現金及び現金同等物の 増減額	3,109	2,831	858
現金及び現金同等物の 期首残高	10,639	11,497	10,639
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	13,748	14,328	11,497

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 連結累計期間 平成27年6月1日から 平成27年11月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成28年6月1日から 平成28年11月30日まで	前連結 会計年度 平成27年6月1日から 平成28年5月31日まで
売上高	27,879	28,221	58,773
売上原価	11,172	10,836	27,539
売上総利益	16,706	17,385	31,234
販売費及び 一般管理費	11,713	11,785	23,916
営業利益	4,993	5,600	7,317
営業外収益	398	454	731
営業外費用	191	178	493
経常利益	5,199	5,875	7,555
特別利益	—	99	13
特別損失	33	22	64
税金等調整前 四半期(当期)純利益	5,165	5,953	7,503
法人税等合計	1,830	1,617	2,260
四半期(当期) 純利益	3,334	4,335	5,243
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純利益	12	16	27
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	3,321	4,319	5,215





会社概要／株式の状況 (平成28年11月30日現在)

□ 会社の概要

商 号 株式会社 **サカタのタネ**

英文社名 **SAKATA SEED CORPORATION**

創業年月 大正2年(1913年)7月

設立年月 昭和17年(1942年)12月

資本金 135億円

本 社 横浜市都筑区仲町台二丁目7番1号

従業員数 659名

□ 株式の状況

発行可能株式総数 104,000,000株

発行済株式の総数 48,410,750株

株主数 22,497名

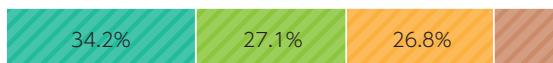
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社ティーエム興産	7,607,996	15.71
株式会社みずほ銀行	2,245,500	4.63
株式会社三井住友銀行	1,990,760	4.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	1,736,500	3.58
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	1,199,000	2.47
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口9	816,800	1.68
株式会社横浜銀行	744,047	1.53
佐々木 嘉樹	680,000	1.40
キッコーマン株式会社	678,000	1.40
丸一鋼管株式会社	600,200	1.23

(注) 当社は、自己株式3,408,445株を保有しておりますが、上記10位からは除外して記載しております。

□ 所有者別株式分布状況

個人・その他 金融機関 その他の国内法人



外国法人等 11.2%

金融商品取引業者 0.7%

□ 役員

代表取締役社長
社長執行役員 坂田 宏

常務取締役
常務執行役員 内山 理勝

常務取締役
常務執行役員 加々美 勉

取締役執行役員 金子 英人

取締役執行役員 本田 秀逸

取締役執行役員 宇治田 明史

取締役執行役員 黒岩 和郎

取締役執行役員 古木 利彦

取締役(社外) 菅原 邦彦

取締役(社外) 井原 芳隆

常勤監査役 遠田 光雄

監査役(社外) 長谷川 上

監査役(社外) 沼田 安功

執行役員 黒木 達司

執行役員 三浦 高明

執行役員 中井 智二

執行役員 米本 丈夫

執行役員 齋藤 弘佳

執行役員 高宮 全

執行役員 土門 賢一

執行役員 榎本 真也

執行役員 川村 学



海外SAKATAブランド



SAKATA

SAKATAのグローバル展開

世界のニーズに変わらぬ熱意と先進の技術で応える

優れた種子と夢を世界中に届ける「SAKATA」ブランドの活動紹介



政府主催の経済ミッションの一員として アフリカ開発支援のための国際会議に参加

平成28年8月、ケニアで開催された「第6回アフリカ開発会議」に参加し、栄養改善に寄与する品種開発などアフリカの繁栄に向けた事例について発表しました。



欧州・中東・アフリカ圏で多様化するニーズに 柔軟・迅速に対応する研究拠点が始動

平成28年10月、サカタ・ベジタブルズ・ヨーロッパはフランス南部のウショー研究農場に新しい研究施設を開設しました。



遺伝資源の利用を推進するインドネシアの 公的研究施設公開イベントに参加

平成28年9月、当社はインドネシアにある鑑賞植物研究所の施設公開イベントに招待され、生物多様性条約に基づいて当社が作出した『サンパチェンス』の遺伝資源利用の取組みについてスピーチしました。



豊富な遺伝資源への円滑なアクセスで 新品種育成に向けた研究開発を促進

平成28年11月、当社は野菜の品種開発に関わる特許を中心とした“パテントプール”を組織するオランダの民間団体「ILP Vegetable」に加盟しました。パテントプールは、特許権者などで構成され、プールされた特許をメンバー間でライセンスし合える組織体です。当社では積極的な特許利用を通じて研究活動の活性化を図り、優良品種の開発を加速させてまいります。

ジニア「プロフュージョン レッド」がダブル受賞

当社オリジナル品種ジニア「プロフュージョン レッド」が、アメリカで最も権威のある園芸品種のコンテスト「オール アメリカ セレクションズ」において最高賞を、そして同じくヨーロッパで最も権威のある「フロロセレクト」において金賞を受賞しました。

両コンテストにおける同一品種のダブル受賞は珍しく、今後の当社の花事業に弾みをつけるものと期待しています。



ジニア「プロフュージョン レッド」



草創期 創業の苦難を克服し、 世界初のF₁オール・ダブル・ペチュニア品種を開発

合同会社の代表となるが、 横浜大空襲で社屋焼失し辞任

昭和6(1931)年に満州事変が勃発し、開拓移民が増えると穀物や牧草、野菜などの種子輸出が盛んになり、販路も大きく広がった。順調に発展した坂田商会は、昭和11(1936)年に主に野菜の育種を行う「大船農場」を開設した。しかし翌年始まった「日中戦争」で種子輸出にも国家の圧力がかかり始めた。坂田武雄はそんな時期でも、独自の優良品種を開発したいという創業時の初心を忘れなかった。その成果の一つが世界初のキャベツのF₁品種「ステキ甘藍^{かんらん}」の創出である。

昭和17(1942)年1月に国策として種苗会社の企業合同が推奨されたため、坂田商会も同年12月に解散。同業4社と合同し、「坂田種苗株式会社」を設立して武雄が社長に就任した。しかし、昭和20(1945)年5月29日の横浜大空襲で大規模火災が発生。社屋を焼失し、当時56歳の武雄は翌月に社長を辞任。後事を麻生^{いますけ}今助常務に託し、家族と共に山中湖の別荘に疎開してしまった。



大船農場



坂田種苗株式会社 昭和17(1942)年

昭和20(1945)年8月15日、日本の敗戦で戦争は終わった。坂田種苗に170名ほどいた社員は20数名に激減。戦後も不遇な状況がしばらく続いた。加えて戦後の改革で「大船農場」は没収された。

麻生社長は戦後の混乱期を乗り切ったが、昭和22(1947)年初夏に武雄を訪問、社長復帰を促した。頑固な明治男の武雄であったが、数時間に及ぶ激論と押し問答の末に根負けして復帰した。同年6月、58歳の時であった。



「ステキ甘藍」が掲載された
昭和15(1940)年のサカタ種苗目録

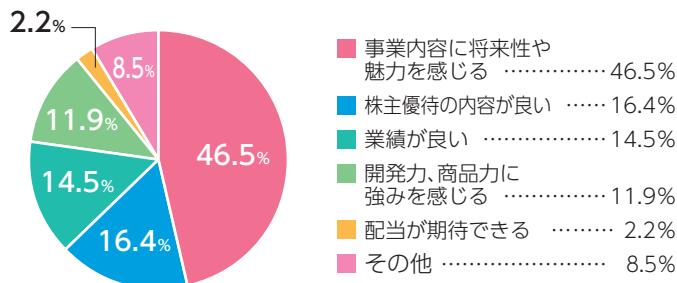


株主様アンケート集計結果のご報告

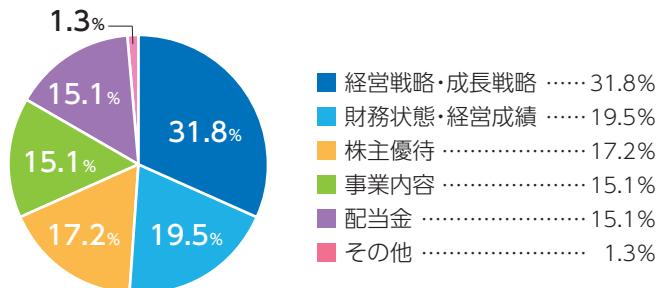
株主優待通知書にご同封させていただきましたアンケートの集計結果についてご報告申し上げます。

ご回答いただきました24,652名の株主の皆様、ご協力ありがとうございました。

Q 当社株式を購入された理由を教えてください。



Q 当社株式を長期保有していただくにあたり、重視する点を教えてください。



皆様から頂戴しました貴重なご意見を活かし、IR活動のさらなる充実に向けて努めてまいります。

当社では、株主の皆様はもとより、顧客の皆様方の満足度向上を目指し、「お客様相談室」を設けております。

お客様相談室
TEL 045-949-8137

(受付時間：平日 午前9時～午後5時)

株 主 メ モ

事業年度	6月1日～翌年5月31日
配当金受領 株主確定日	期末 5月31日 中間 11月30日
定時株主総会	毎年8月下旬
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同 連 絡 先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-7111 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 (証券コード 1377)
公 告 の 方 法	日本経済新聞

(ご注意)

株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。

UD FONT
by MORISAWA

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

